

第1回 仙台市総合計画審議会都市の魅力部会議事録

日 時	平成22年7月13日（火） 18：30～20：30
会 場	せんだいメディアテーク 1階 オープンスクエア
出席委員	阿部初子委員、石川建治委員、江成敬次郎委員、大草芳江委員、岡本あき子委員、高野秀策委員、西大立目祥子委員、増田聡委員、間庭洋委員、宮原育子委員、柳井雅也委員 [11名]
欠席委員	大滝精一委員、小野田泰明委員、菅井邦明委員、鈴木勇治委員 [4名]
事務局	山内企画調整局長、大槻企画調整局次長、白川総合政策部参事、梅内総合計画課長、遠藤総合計画課主幹、柳津総合計画課主幹
議 事	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 部会長選出及び部会長代行指名3 議事<ol style="list-style-type: none">(1) 部会の運営に関する事項について(2) 基本計画の素案について(3) その他4 閉会
配付資料	<ol style="list-style-type: none">1 都市の魅力部会委員名簿2 都市の魅力部会の運営について（案）3 基本構想・基本計画の全体構造とコンテンツ4 基本計画（骨子案）5 人口フレーム（素案）6 持続可能な都市空間づくり（素案）7 分野別計画の体系（たたき台案）8 まち歩きフィールドcafe（参加募集ちらし）

1 開会

梅内総合計画課長

それでは、定刻となりましたので、ただいまから「仙台市総合計画審議会 第1回都市の魅力部会」を開催させていただきます。

初めに、資料の確認をさせていただきます。ご確認ください。

お座席に、座席表、次第、資料一覧、資料1～7、参考資料の1と2、資料8、そして委員の先生方には第1回審議会からの資料一式をつづりましたファイルを置かせていただいております。ご確認ください。よろしいでしょうか。

なお、傍聴にお越しの皆さんには本日の資料のほか、アンケートが入っております。お帰りの際、お手数ですがご記入をいただきまして、受付の回収箱にご提出をお願いいたします。

本日、出席委員数ですが現在10名、お一方まもなくお越しの予定でございます。定足

数を満たしているということをご報告いたします。

続きまして、本来の議事に入ります前に、本日お聴きになられている皆様のために本会議の趣旨とこれまでの議論についての概略をご説明させていただきます。

(本会議の趣旨とこれまでの議論概略説明)

2 部会長選出及び部会長代行指名

梅内総合計画課長

それでは、議事に入りたいと思います。

まず、部会長の選出と部会長代行の指名でございます。

部会長につきましては、開会前に調整をさせていただきまして、複数の委員の先生から宮原委員を推すご意見をいただいております。また、宮原委員からは、部会長になった場合には間庭委員に部会長代行をお願いしたいというお話をいただいておりますが、委員の皆様いかがでございましょうか。

(異議なしの声あり)

梅内総合計画課長

異議なしということでございますので、それでは宮原委員に部会長を、間庭委員に部会長代行をお願いしたいと存じます。

では、先生、部会長席、代行席の方にご移動をお願いいたします。

3 議事

(1) 部会の運営に関する事項について

梅内総合計画課長

それでは、ただいまより議事に入ります。

定めによりまして、部会長に議長をお願いすることになっております。ここからの進行は宮原部会長をお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

宮原育子部会長

かしこまりました。

皆さんおばんでございます。これから都市の魅力部会を始めたいと思います。まず、議事に入ります前に、私から今回、このメディアトークを会場としまして都市の魅力部会を開催することにつきまして、若干趣旨をお話させていただきます。

実はこれまでも仙台市総合計画審議会につきましては公開であったんですが、ずっと昨年からの審議が市役所の中での開催でありましたために、この審議の様子をお聴きに來てくださる方が残念ながら余りおられませんでした。また一方、この総合計画審議会の中ではまちづくりが大きなテーマでありますし、それから市民の方々の力を今後の計画の中に生かしていきたいということを考えたときに、やはり多くの市民の皆さま

んにこのまちづくりのビジョンについて一緒に考えていただく、そういった機会をもう少しこちらからも積極的にもちたいという思いで、今回このようなオープンなスタイルをとってみました。ちょっと一見すると事業仕分けみたいになっていますが、仕分けではなくて仙台の将来にかかわる大切な皆さんと一緒に場を設けられたということで、私たちも大変にありがたく思っております。

本日は会場の皆様にも、最後にご意見やご感想をいただく場も設けたいと考えておりますし、事務局からもございましたが、お席に資料と共にアンケートをご用意しておりますので、是非今日の議論をお聴きになられながら議事につきまして皆さんも一緒に考えていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入りたいと思います。

まず、部会の運営について事務局から説明をお願いいたします。

梅内総合計画課長

都市の魅力部会は、資料1に掲げました15名の委員からなっております。

資料2をご覧ください。運営のルールでございますが、審議会本体と同様でございます。会は原則公開で行い、傍聴の皆様におかれましては円滑な運営にご協力をお願いしたいと存じます。

また、この議事録等を作成しまして、2週間を目途にできるだけ速やかに概要をホームページ等にアップしてまいりたいと考えてございます。議事録には議長及び議長が指名した委員1名の方にご署名をお願いしたうえで、ホームページ等に掲載してまいりたいと考えてございます。

以上の様なルールで進めたいと存じますけれども、よろしいでしょうか。

宮原育子部会長

はい。ありがとうございます。

それでは、本日の会議の議事録の署名につきましては、名簿順ということで、阿部委員にお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

阿部初子委員

はい。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

それでは、阿部委員に議事録の署名をお願いいたします。

(2) 基本計画の素案について

宮原育子部会長

続きまして、基本計画の素案につきまして、早速議論を行ってまいりたいと思います。まず事務局から資料の説明、資料3からスタートして、それを一通り先にご説明をいた

だいた後、皆さんからご意見をいただくようなかたちになるかと思います。よろしくお願いいたします。

梅内総合計画課長

それでは説明をさせていただきます。

資料3を御覧ください。基本構想から基本計画にかけまして全体の構造を一枚にまとめたものでございます。本日資料が多くなってございますので基本的にはこれに従いましてご説明をさせていただきたいと思っております。

現在、基本構想につきましては、昨年来起草委員会を中心に議論が進みまして、1、2、3、4に掲げますような構成で進めているところでございます。その中では2番の「仙台の未来を創る市民力」を強調し、これを今回の基本構想の特徴としているところでございまして、これからの時代背景を考えたときに、4に掲げるような、いかに都市経営をしていくかということが課題だと考えているところでございます。このような基本構想の議論を受けまして、本日、基本計画の部会を開いてございます。基本計画の全体像をお示しするのは本日が初めてでございまして、一から説明をさせていただきます。

基本計画につきましては2011年、来年の4月から10年間、2020年に至るまでの本市が取り組む施策の方向性を掲げる計画を予定してございます。計画期間が10年という計画でございまして、人口フレームという本市の人口が今後どのように進んでいくかという推計でございしますが、それをどうするかというのを最初に掲載したいと思っております。

資料5を御覧ください。この基本計画におけます人口推計、人口フレームという形でお示ししているものでございます。人口の予想につきましては昨今、人口の伸びが鈍くなってございますが、各種の都市インフラ、例えば水道ですとか下水道、都市ガスといったライフラインを始めとしまして、人口がどのぐらいで増えていくかということを想定しながら、従来まちづくりを進めてきたものでございます。したがって、各種の市の施策を推計する上で今後の人口の動向が非常に重要になってまいりますので、冒頭でここについてご議論いただくものでございます。

今回スクリーンの方にお示ししておりますけれども、夜間人口というのが仙台にお住まいの方の人口という意味でございます。仙台のような都市構造のまちの場合には、お昼には近隣の市町村から学生さんや通勤の方が来られるということで、お昼の間の人口というのは更に多いわけですが、一応夜間人口、お住まいになっている方の人口を基に推計を進めてございます。今日現在ということでありませんが、22年度の人口を103万8千人と予想してございます。そして、推計上は2年後の2012年に104万人程度でピークを迎えまして、2020年、計画期間満了時には103万人程度に人口が減るのではないかと考えてございます。傾向といたしましては、その後も緩やかに減少を続けるのではないかと考えているところでございます。

夜間人口の下が三つの区分になってございますが、特徴的なところといたしましては、少子高齢化ということが盛んに言われておりますけれども、現在65歳以上の高齢者人口

の構成比が現時点で 18.8 パーセントでございますが、2020 年には 25.4 パーセントと 4 分の 1 を超えるのではないかと推計をしております。それに伴いまして、生産年齢人口、働いている方の人口、もちろん 65 歳以上でも働いている方はたくさんいますが、一応こういった区分をしております、その人口が 68 パーセントから 63 パーセント弱に減るのではないかと推計しております。

昼間人口というのは、先程言いました仙台市に通勤、通学で来られている方を加算した人口の想定、都市圏人口というのは仙台都市圏という 13 市町村で構成しております都市圏という概念がございますが、その人口の想定でございます。都市圏人口につきましても緩やかな減少がこの 10 年のうちに始まるのではないかと想定をしているところでございます。

人口推計につきましては、これまで統計学的な推計を用いました値のほかに、どの程度の人口がこの間更に推計よりも余計に張り付くかということも加味しておりましたが、現在やはり日本全国、とりわけ東北において人口減少が厳しくなっておりますことから、今回そういった政策誘導的な人口を基本計画上の人口推計に含めないで、統計学的な人口の推計を計画人口にはいかがかと思っております、本日こういうご提案をさせていただいているところでございます。

資料 5 の 3 ページと 4 ページには、参考までに超長期的な推計も載せてございます。あくまで統計的な数値でございますが、これによりますと本市が 2050 年になった段階では生産年齢人口が 51 パーセント、高齢者人口が 40 パーセント、年少人口が 9 パーセントということで生産年齢人口と年少者、高齢者を合わせた人口がほぼ同程度になるのではないかと推計がございまして、こういったトレンドを踏まえながら今後のまちづくりを進めていく必要があるのかなと思っております。

資料 3 に戻ります。本計画の理念と視点でございます。「課題に対応するために」という副題をつけてございますが、理念として二つ掲げてございます。「成熟社会の成長戦略を示す」というものと「未来に責任を持つ都市経営を目指す」というものでございます。

先程資料でご説明申し上げましたとおり、本基本計画は仙台市の総合計画がつくられて、若干でございますが初めて人口減少に転じるという、方向性が変わる時期につくられる計画でございます。そういった時期にありましてなお仙台が東北の発展を支えるような都市であり続けるために、こういった成長戦略を示していくことができるのかといったような理念をこの計画の中でうたってまいりたいと考えておりました、この点につきまして委員の皆様のご意見をいただければと存じます。仙台のような都市でございますので、創造的人材をいかに他都市との間で獲得できるか、大規模な工場の用地がございませんので新たな都市型産業をいかに誘致、育成できるか、優れた都市環境を向上させることによっていかに暮らしやすさを守ることができるかということを重視してまいりたいと考えてございます。

また、都市経営という意味におきましては、これまでの市民協働の流れを更に進めまして新しい市民参加と新しい市民協働の枠組みを構築してまいりたいと考えてございます。また、市役所におきましても、自らの行財政改革を着実にやり、機動力のある行政

運営をしていければと考えているところでございます。

次に視点でございますが、一つは「まだら化」に対する地域課題の対応ということを考えてございます。市長もよくいろいろなところで申し上げているところでございますが、人口の伸びが止まってまいりまして高齢化が進む中で市全体として見ますと、従前よりも都心のマンションあるいは地下鉄やＪＲ駅近辺のマンションなどが多く建ちまして、以前よりはそういった鉄道の拠点周辺の人口の増加が著しくなっております。それに伴いまして従来の住宅におきましては、高齢化が進んでいる地域又は人口がやや減ってきている地域というのが出てまいりまして、地域課題が個別に隣接する地区であっても個別の地域課題を抱えるようになってございます。そういったことに対しまして、地域と共にどのように対応していくかということを大切な視点として考えてまいりたいと思っております。

二つ目が「選ばれる都市」であること。選ばれる都市であるためには、当然市民の皆様にとりまして暮らしやすい都市であることが不可欠でございます。仙台のこれからの成長には現在の良好な都市環境を保全するだけではなく向上させ、また質の高いコンパクトな都市構造へ展開していくことが不可欠なのではないかと考えているところでございます。

三つ目は「学都の伝統や知的資源の活用」という点でございます。都市には多くの人材が交流しておりますので、これらの人々が様々な場面で出会い刺激しあうような「学びの場」というのが都市の発展に不可欠と考えてございます。また高齢化社会ということを考えますと、高齢者の方の能力、個性といったものをいかにまちづくりに生かしていくかということも重要な視点でございまして、そのためにも個々の個性を生かす「学び」、広い意味での「学び」というのは非常に重要だと考えてございます。昔から学都・仙台と言われますけれども、学都・仙台らしい多様な「学びの場」をつくっていきたいと考えているところでございます。

以上のような理念・視点に基づきまして、分野別計画、全市計画を「市民の暮らし分野」と「都市の魅力分野」に分けて体系化させたいと考えているところでございます。市民の生活をミクロからみた市民の暮らし分野と、都市全体からみた都市の分野という二つに分けたらいいのではないかと考えて本日ご提案しているところでございます。この二つの区分に従いまして基本計画の審議の部会を二つに分けておるところでございまして、本日の都市の魅力部会につきましては、主に下の段の都市の魅力分野についてご議論いただければと思っているものでございます。

都市の魅力分野につきましては、資料７、分野別計画の体系（たたき台案）と書いてある資料の１２ページ以降でございます。体系を六つに大きく分けまして、「自然と調和する持続可能な環境都市づくり」「美しく魅力ある都市景観・空間づくり」「機能集約・地域再生型の市街地の形成」「公共交通中心の利便性の高い交通体系の構築」「地域を支える経済・活力づくり」「魅力を向上する都市力づくり」の六つの政策分野に分けてまとめてまいりたいと考えているところでございます。

次にこの全市体系、分野別計画に基づく重点プロジェクトでございます。資料３にお戻りください。現在のところ今回の基本計画を実施していく上で重点的なプロジェクト

といたしまして市役所の中で議論をして、今まとまっているものが三つございます。

一つが「きめ細かな地域づくり」でございます。先程の「まだら化」する地域課題に対応するといった視点から導かれた政策でございます。地域の多様な主体と共に地域づくりに取り組んでまいりたいと考えてございまして、それに必要な行政側の組織体制の改革、また地域の皆様にどのようにこれに参加していただくか、また新たな協働の仕組みをつくっていく必要があると考えているところでございます。

二つ目、選ばれる都市であるために、良好な都市環境と質の高いコンパクトな都市構造へ変換するという視点を政策としてまとめたものでございます。これにつきましては、資料6を御覧ください。仙台の良好な環境を守るという意味でゾーニングといいまして、市内の地域区分を大きく三つに分けることを考えてございます。「自然環境保全ゾーン」と「集落・里山・田園ゾーン」、「市街地ゾーン」の三つでございます。前のスクリーンにあります濃い緑の部分「自然環境保全ゾーン」と、黄緑の部分「集落・里山・田園ゾーン」と「市街地ゾーン」でございます。市街地ゾーンにつきましては様々な住宅、各種拠点がございましてこれをいくつかの区域に分けたいと思っております。

「鉄道沿線区域」は先程申しましたJRや地下鉄沿線の人口が最近増えている地域でございます。そのほかに「工業・流通・研究区域」は仙台港周辺地域、青葉山地域、泉北部地域等の地域でございます。そのほかに市街地ゾーンのうち、先程二つの区域以外の区域で生活機能の維持などを図っていく地域を「郊外区域」といたしております。仙台駅を中心といたします都心部のほかに、各種の拠点を配置してございます。仙台市南部及び北部の市町村との広域的な生活拠点であります泉中央地区と長町地区を広域拠点といたしまして、仙台港周辺に広域経済流通拠点、青葉山地区周辺に学術・文化・交流等を配置してまいります。2020年までの計画期間の真ん中の2015年に地下鉄東西線が開業の予定でございます。この結果地下鉄南北線とあわせまして、十字の地下鉄沿線の都市骨格軸が完成してまいります。ここを都市軸ということでスライドの方で赤い破線で示しているものでございまして、この部分に各種の都市機能を集積していく必要があると思っております。

次に3ページのところにございます都市内交通体系でございます。期間内の地下鉄東西線の開業等を念頭におきまして、地下鉄駅、鉄道駅などを中心といたしました公共交通ネットワークを再編しまして、こういった鉄道の軸周辺だけではなくすべての区域にとって利便性の高い交通体系をつくり上げていきたいと考えているところでございます。

資料3にお戻りください。最後の重点プロジェクトでございますが「学びの都づくり：ミュージアム都市構想」でございます。若者から高齢者まで、市民の方も仙台にお見えになった方も仙台市地域の中で学び、地域資源を再発見しながら新たな学びということを重視するような学びの場を多くつくっていくための取組を力を入れてやってまいりたいと考えているところでございます。

これに加えまして基本計画の中では、本日参考資料2ということでお付けしてございますが、区別計画を現在各区役所で、区の関係する市民の皆様、地域団体の皆様のご意見をうかがいながら、区別の将来ビジョン、圏域ごとの方向性、区別の都市空間の形成、ランドデザインの策定を進めてございます。委員の皆様には先日ご報告申し上げまし

たとおり、区別計画につきましては区でたたき台をつくりまして、審議会にこのような形でいかがでしょうかとご提案をしてご意見をいただきたいと思っております。現在各区と市で連携しまして作業を進めているところでございます。

最後に7番、推進体制ということでございます。基本計画の推進にあたりましてはできるだけ分かりやすい目標を設定したいと考えてございます。このような目標を設定しまして、これを市民の皆様と共に評価するような手法を取り入れることができないかということでその仕組みについて検討しているところでございます。

また、10年に渡ります本基本計画のもと、3年のアクションプランでございます実施計画を策定する予定でございまして、これにつきましても厳しさを増す財政状況でございますので、財源的裏づけをとりながら実効性のある実施計画をつくりたいと思っております。

以上、足早でございますが、本日の資料の概要についてご説明させていただきました。ご議論をよろしくお願い申し上げます。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

資料が今日はたくさんありまして、前後しながらご説明を聞いたんですけれども、資料4はどういう位置づけか一言お願いします。

梅内総合計画課長

資料4につきましては基本計画の骨子ということでございまして、ただ今資料3を基に後資料を説明しましたような基本計画の全体の流れにつきまして簡単に箇条書きでまとめたものでございます。今の説明も基本的にはこの資料4に書いてあるような内容につきまして説明したものでございます。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

今日はこの資料3の大きな紙がありまして、先程ご説明いただいたとおりですが、左側に基本構想、右に基本計画という二つの大きな箱がございます。2011年から2020年までの10年間で考えていく計画ということなんですが、それはこういう基本構想を基にこの基本計画を展開していくということになります。

今日ご説明あった中で一番のポイントにつきましては、人口の推計についても具体的な数値をお示しいただきましたし、それからこの基本計画を押し進めていくための理念と視点についてのご説明、それからもっと具体的にいろいろ課題を検討する際に、今日開催していますが分野に分けて一つは「市民の暮らしの分野」それから「都市の魅力の分野」というような形で分けまして少し整理をしております。また、その中で特に重点的に取り組もうとするプロジェクトにつきましての方向性、これについても整理をしております。後は、仙台市全体だけではなくて市内の区ごと、ないし地域ごとのいろいろな計画もその地域によって課題もかなり違ってきますので、具体的に現場の皆さんから

お話を伺いながらこういった区別の計画も一緒に考えていきますということになるか
と思います。

委員の皆様からはこれから順繰りにご意見をいただきたいと思っております。今日マ
イクの本数が限られておりますので、お手数ですが発言される委員の方は手を上げてい
ただければ助かります。

それではまず資料3と4につきましてです。大きな計画の設計図でございます。ずっ
と審議会でも議論をしてきたところなんです、このように整理をされてまいりました
けれども、こちらについてご質問やご意見ありましたらお願いしたいと思います。いか
がでしょうか。

では西大立目委員。

西大立目祥子委員

まず質問をさせていただきたいのですが、この都市の魅力部会は大体何回ぐらい、こ
の件について議論する場があると考えてよろしいのでしょうか。

宮原育子部会長

では事務局からお願いします。

梅内総合計画課長

確実に何回ということを決めているわけではございませんけれども、この後3度ない
し4度の部会の開催を考えてございます。

宮原育子部会長

よろしいですか。何かご意見あれば。

西大立目祥子委員

多分言いたいことがたくさんありそうなので1、2回では足りないかなという気がし
ておりました。

後もう一つ質問なんですけども、人口フレームが2012年にピークで人口減少するとい
うことだったんですけれども、確か昨年のお正月の新聞で、国立社会保障・人口問題研
究所の予測では今年がピークで後は減るということだったんですけれども、この2年の
ずれというのはどう考えればよろしいでしょうか。

梅内総合計画課長

それではお答えいたします。

先程の3度の開催ということでございますが、中間案策定前にもう1度、その後パブ
リックコメント等行いますのでそういった市民意見を踏まえてまた複数度開催したいと
考えております。そういうことを補足させていただきます。

人口でございますが、昨年確かに新聞で推計のことを載せていただきました。あの推

計も私どもの推計の数値でございます。当時掲載したときに、取材でお答えしました場合には2年前の人口数値を基に、現在と同じ手法でコーホート要因法と言われます統計手法に基づきまして推計したものでございましたけれども、当時と比べまして現在はなお人口は減らず増えている状況でございます。特に今年もその傾向に顕著でございますけれども、例年仙台市の人口というのは、3月に首都圏を中心に流出が5千人から1万人といったペースでございまして、4月、5月に流入人口が同じぐらいあって大体出入りが同じぐらいになって、そのほかに若い方の多いまちでございますので、お子さんが多く生まれまして人口が少し増えるという傾向がここ数年続いてきたわけでございます。けれども、今年が著しいんですが、3月の流出入口が例年に比べまして半分程に減りました。それで流入人口が例年と変わらなかったのも、そういう意味ではお子さんが生まれる数のほかに、社会増減と呼んでおりますけれども、流出流入の人口というところでここ1、2年、特に今年は顕著にそれまでと違った数値が出てまいりまして、その結果まだ人口増加が続いてございます。ですから、私どもとしましてもこの推計人口、本日お示ししました人口の推計も6月1日の直近のデータを急いで算入してこういったものを示してございますけれども、ここ1、2年の動きが従前の統計的な推計と違った動きになってございますので、今後も注意しながら直近のデータで開催する場合には、また審議会の方に諮りながら見直しをしたいと考えております。要因につきましてはそういった3月の流出入口の減ということで、結果的に人口が千5百から2千、想定よりもずっと増えてきております。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

いかがですか。

西大立目祥子委員

その流出が半分になったことの理由などがはっきりしていれば、それでもいいのかもしれないのですが、やはり人が減るということを自明のこととして、この計画はつくられなければならないと思うので。いやいや仙台は大丈夫だという感じで甘い人口見通しがつくられていろいろな失敗引き起こしています。その辺はシビアに見ていただきたいなと思っています。

宮原育子部会長

はい、ありがとうございます。よろしいですか。

梅内総合計画課長

ご指摘のように仙台21プランにおきましても、22年の時点の人口112万人と想定いたしまして実際まだ104万人弱でございますので、乖離が出ているところでございます。平成9年、10年当時の推計でございますが、平成元年から平成5年頃にかけてまして政令市へ、89万人で政令市になりまして平成11年に100万人になりましたので、年7、8千人といっ

た勢いで当時人口増が続いておりましたので、そういった統計的なデータを基に統計手法で推計した結果こういった形の乖離が生じたものでございます。その後人口の伸びがだんだん止まってまいりまして、現在のようにわずかながら増えるといった傾向の中、統計的なデータを見ましてこの10年間では減少に転じるのではないかと推計を出したところでございます。私どもとしまして、今西大立目委員からご指摘ありましたように、実態になるべく近い推計に基づいていろいろな施策を組み立ててまいりたいと考えております。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

よろしいでしょうか。前回の計画ではやはり増える、増えていくだろうという形でかなり大きく見込んだ計画ですけれども、今回初めて仙台市としてはこれから人口がどんどん減っていくということを前提にして、なるべく近い推計の形で計画を組んでいきたいという形で、今回将来人口の推移を積み上げをしないでそのままの数で計画を組みたいということでこの資料が出てまいったかと思います。

間庭洋部会長代行

混乱するようなことは言いたくないんですけれども、人口を見る場合、行政区域と都市圏と出ていますけれども、仙台のポジションを考えると、東北とかあるいは東南北三県などのそういうエリアで少し広くみていかないといけないなと思うんです。例えば北海道は顕著ですけれども、北海道は700万ぐらいたとしましても人口は減っています。しかし、札幌は割合と膨張、あるいは維持しています。つまり働く機会が、あるいは暮らしの問題で札幌を選んでいるという、選ばざるを得ないという人口の社会移動の関係を、東北においても仙台というポジションで考えないといけないという視点はあると思うんです。ですから都市圏とか仙台市という行政区域でのこういう精査も必要なんです、そういう広域的な社会移動というものもまた視点に入れておいて、仙台が必ずしも大きくドライブがかかるように減速しない可能性もあるということも、東北という背後地とか広く見た場合にはそういうことも視野に入れて、展望しないといけないという視点はなくせないと思います。参考までに。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

今の間庭委員のご意見について。

山内企画調整局長

全く間庭委員と同感でございまして、そういった視点の基に基本構想の時代や環境との関連性とか、そういった中で東北全体での人口が減るというのは入っておりますけれども、そういった中でも仙台の占める就業比率は高まっていくこともございますので、その辺で東北を支える役割を十分担っていく必要があると思っています。

参考までに、人口フレームの資料5の4ページ目に参考的な資料を載せてございまして、一つ目は東北と仙台市の関係、この4ページの下の部分に書いてございますけれども、本当にこれは超長期的なスパンです。1900年から2100年にかけてという非常にこう大きな部分でございまして、超長期まで推計しない部分は途中で切れておりますけれども、例えば東北と仙台市の関係でも東北が明らかに人口が減少していく中で、仙台はそれ程の急激に下がっていかないという部分もあって、比率は当然高まっていくという構造がございます。参考までに、上の部分は国との関係です。1900年、2000年と100年でものすごい勢いで人口が増えて、これからの人口減少傾向の中で2100年にはこういった数字の推計も出ているという、非常に特殊な構造という部分も頭に入れながらいろいろ計画づくりも必要だという問題意識の中で、参考までの資料としてまとめてございます。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

今の資料5の人口フレームのお話にご意見が出されていますけれども、ほかに皆さんからご意見いかがでしょうか。

では柳井委員をお願いします。

柳井雅也委員

今日のこの説明を聴いていて、ビジュアルに都市のイメージを想像しながらお話をうかがっていたのですが、一つだけ心配なことがあって、この計画を本当に推進していくと、仙台の中心部が景観として、景色、風景として、かなり人の居ない殺伐としたようなまちになってしまうのかなという心配をしております。現在、空室率が高いという問題も含めてなんですけれども、そここのところがちょっと心配で、実はその新産業の技術生産型とか青葉山のサイエンスパークとか卸町とかを想定されていると思うのですが、実はそういう産業コストは24時間対応型ということで、やはりまちの中に誘導してくることもひとつ考えておかないと、中心の部分をどうするのかというのが実はこれから深刻化してくる問題で、合わせて中心商店街の問題も出てくるんです。つまり産業があって商業というのが成り立つわけなんですけれども、そここのところも関係性という部分がどうもこの計画を見ているとうまく読み取れないところがあるんです。そこをひとつ気にしております。

また意見を言う場があったら言わせていただきます。

宮原育子部会長

お願いします。ありがとうございます。

事務局でいかがですか。

梅内総合計画課長

ご指摘の点につきましては、現在都心部の人口というのはやや増えてきており、新しく比較的手に入りやすいようなマンションが出てきておりますので、都心回帰のような

現象はあるのかなと思ってございます。ただ今、柳井委員の方からご指摘ありましたような都心部の空室率の問題、そういったところは私どもの方でも非常に大きな問題であると考えてございまして、なかなか工場用地というのは仙台市内に新しく満たすことができませんので、委員のご指摘のありましたような都市型の例えば研究開発系の産業については、都心部を含めて商店街を含めて、商店街の活性化でありますとか、そういう空室オフィスの需要に向いているのではないかと考えまして、理念の１番目にもそこを考えたところでございます。しかし、ご指摘のとおりそこをどう取り組んでいくかというのはなかなか難しい課題でございまして、この部会のご意見なども踏まえまして市内部で議論していかなければいけない課題であると思っているところでございます。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

ほかにいかがでしょうか。

では高野委員お願いします。

高野秀策委員

今の人口の推移で、確かにこう減っていくという表現されておりましたが、今東西線工事をやっていますよね。荒井地区は東の終点なんですけど、この東西線は乗客が余りこよう伸びないんじゃないかという予測の基に周辺の農地の区画整理が進められつつあります。しかし、少子高齢化で区画整理した後の土地の利用をどうするのか。ただ宅地を造ってアパートとかマンションとか戸建て用地を造って、本当にそういうところに人が張り付くのか。この数値をみても仙台にそんなに一極集中で集まるわけでもないのに、そういう指導でいいのか。ですから、今お話ありましたように、仙台には大きなまとまった工業用地もないので都市型の産業を誘致するとか、何か宅地だけの土地利用だけじゃなくてそういったことの区画整理の指導をしていかないと、その区画整理は宙に浮いてしまうんじゃないかと。宅地は供給過剰だと私は思っています。ですから、そういった考え方も是非当局で示していただければと思っております。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

何かよろしいですか。

梅内総合計画課長

ご指摘の点でございしますが、宅地につきましては市街地の外延化の抑制ということも一つ考えてございまして、ご指摘のとおり、現在荒井地区に新しい区画整理を進めておるところでございしますが、この点につきましては東西線という新たな仙台市の骨格軸、そのＪＲでありますとか地下鉄沿線といったところにできるだけ人口を誘導いたしまして、新しいインフラ整備等がなかなか難しい状況になってまいりますので、やはり人口の集積をある程度一定地区に図っていく、それによってできるだけ多くの人が同じよう

にサービスを受けやすいような状況をつくるというのがひとつの都市の使命だと思っております。それに基づきまして現在進めておるところでございますが、おっしゃるように仙台がこれからどのようにして糧を得るかと考えたときに、先程柳井委員からご指摘ありましたような都市型産業でありますとか、そういう仙台の構造に相応しい産業の誘致、育成をしっかりと図っていかねばいけないと思っております。そのための方策につきましてご指摘ありましたように、市内部でも関係部局の方と協議をしてございます。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

いろいろこう人口の先々見ていくと、やっぱりいろんなことを心配しないといけないなというのを今、高野委員や柳井委員のお話をうかがって感じております。

ほかにもいかがでしょうか。こういった人口推計からでも結構ですが。

岡本委員お願いします。

岡本あき子委員

今までの委員の質問とかご意見からもあったように人口自体の総数がここ10年でそう変わらない、あるいは緩やかに減っていくという前提の中で、一方でやはり地下鉄沿線とか鉄道沿線では宅地開発が進んで、人口が急増する地域も現実あるんです。ということは逆に言うと、どこかで人口が激減していく、あるいは本当に若い世代が全く住まなくなってしまう地域もあるのも現実です。だから、機能集約型という項目、文字はあるんですけど、一方で逆にまだら化する地域課題に対応していく、区ごとに政策をつくったりあるいは地域環境をつくったりしているんですが、自分の地域では皆さん自分の地域が発展することを望んでいらっしゃるの、どうしても地域課題を積み重ねていくとみんな、すべて発展していきましようという形になってしまうおそれがあるんです。したがって、是非せっき私たちの審議会があるので、ここの中である程度10年後を見据えた中では、更に人口増が進むであろうエリアに対する施策と、後どうしても人口が減らざるを得ないあるいは急激な高齢化が更に加速するであろうエリアで、大変失礼なんですけれども、新たな投資がなかなかもうできませんということも一方で明確に出さないといけないと思うんです。そこら辺はきっちりと区別をして、新たな投資はできないけども既存の施設なり既存の資源を活用していかに生活を維持していくか、あるいは失礼けれども、人口の移動、誘導するかとかそういう施策が多分ここ10年でまさに求められる時代だと思うので、何となくすべての地域に明るい未来がありますではなくて、申しわけないけどここは厳しくなるけれどもこういう形で力を維持していただきたいとか、そういうことをある程度提言せざるを得ないと思います。そこら辺は是非計画の中に明確に、あなたのところはだめですとかそこまで言う必要はないんですが、でも新たな投資が厳しいというところはきちんとお伝えしないと、財源も無い中で取り組まなければいけないという中で私たちに突きつけられているテーマでもあるので、そこを忘れずに盛り込んでいただきたいと思います。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

一問一答みたいになっていますけども、いいですか。

梅内総合計画課長

ただ今のように、まだら化ということで人口が急増している地域はまだございますし、一方で高齢化が急速に進んでいるといった地域があるというのは、まさにご指摘のとおりでございます。そういった中でどういう地域課題に対応していくかというときに、ご指摘のように新たな投資というのがかなり厳しくなっておりますので、既存の公共施設でありますとか、また民間の施設でも空きが出てきたような施設について、地域と一緒にそれをどう有効に活用していけるかということも真剣に考えていかなければいけないと思っておりますし、それに向けた新しい仕組みづくりの提案ができればいいと思って今検討を進めております。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

では増田委員をお願いします。

増田聡委員

先程人口フレームのお話が出てきましたが、かなり不確実な要素がたくさん残って一本の数字でいいのかというのがやや気にならずともないところです。社会移動率とか、出生率はそう大きく変わるものではないのかもしれませんが、対東北、対首都圏に対する人口移動をどうみるのか。社会経済動向がまともに変わっていく可能性があるので少し幅をもった計画フレームの見方も必要じゃないかと思えます。

それとフレームの方について言うと、財政フレーム及び産業フレームも設定するのかしないのか。人口以上に難しい面はあると思うんですけれども、ただ財政再建のための計画が別途つくられているものと総合計画はどうリンクすべきなのか、先程新たな公共投資の制約があるという議論も一方で出ているので、真剣にそこと連動させるという総合計画のやり方もあるかなと思えます。

もう一つ、まだら化する地域課題という議論が出ていて、それぞれのセクションの方は、宅地開発やっている方はどこで開発が進み、高齢化問題に対応される方はどこに高齢者団体が増え、教育学校の委員会の方はどこで学校が足りなくなっているというものを、それぞれの部分としては把握されていると思えますし、さっき柳井委員からもあったように中心部の空洞化は本当にどういう実態なのかということも含めて、このまだら化している実態を経年的におっかけるというのを、多分計画を動かしながら、10年経ってどうだったということよりは1年ごとぐらいに見ながら、このパターンはなぜそういうことが起こっているのか、想定範囲内なのかそれとも新しく考慮すべき課題が起こってきたのかということのをモニターする仕組みも同時にここに組み込んでおいていただける

と、どこかで舵を切り直すとか少しこちらの方向に更にシフトしていくということが計画期間中にもやりやすいんじゃないかと思いました。多分市の方はそういう分析が得意なので、是非そういう分析システムみたいなことが市の中にあるって、メディアテークあたりにぱっとやるとごく簡単なシミュレーションみたいなものが、そのくらいできるようになるといいような気がします。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

やっぱり10年という期間って、私たちのこの今までの10年もかなり大きな変化、それからちょっと予想できないような事態というのがいろいろありますよね。ですからこれから10年の計画を立てていく中でやはりきめ細かい形で少しずつ微調整ができるようなデータの積み重ねは非常に重要だというご指摘だと思います。

江成委員から手が挙がりましたのでお願いします。

江成敬次郎委員

皆さんのご意見も議論も聴かせていただいて、私は工学分野なので将来予測をするときに必ず信頼幅というもので幅をつけて予測するんです。人口の場合、なんでそういうのが出てこないのかなという気がしていました。

それと前の話と関連するのですが、仙台市全体の人口予測をしているわけですよね。中で市街地ゾーンとか何とかゾーンというゾーニングを図っているという、図という方向が出ているわけで、例えばゾーンでの人口の変動はどうかとか、できればもっと細かいところで予想をしていくことができればもっといいんだと思うんです。

ただ、そうなってくると別の判断も入ってくるということで、実はちょっとあえて誤解を恐れずに言いますと、多分今仙台市消防局でハザードマップをつくっていますよね。基本的にやっぱり危険地域、危険の大きいところというのは、やっぱり今後の長期的なスパンでみると人が住まないようになっていった方がベターだという考え方があり得るわけだと思うんです。それは10年とか何かでできる話ではないですけども、その準備をどう進めていくのかというその準備期間にこの10年間をあてるとか、それからまた10年経って少し一歩前進させるという長い目で、その自然の仕組みとかあるいは災害の問題も含めて、街全体をどう考えていくのかということも合わせて、人口の問題というのは考えるべきなのではないかという気がしました。そうすると、この10年という計画のフレームというのは、そういう展開でいくとちょっと短いという気がしますけれども、ただいろんなパーツがやっぱりあり得るので今の時点であんまり超長期なことは考えられないだろうと、そうするとこの10年といたら次の10年に向けての準備期間とか、そういった考え方もあっていいのではないかと。10年間で必ずこういうことをできるとかやるとかそんな確実なことというのはそんなに多くはないのではないかと、もう少し次の10年、20年を見据えるための準備期間という要素があってもいいのではないかという気がしました。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

ほかにご意見いかがでしょうか。今の人口のことに引き付けてでも結構です。それから資料3の「3. 理念と視点」それから「4. 分野別計画」でございますが、特に今日は私どもの都市の魅力分野につきましては、先程の選ばれる都市の部分やそれから学都や知的資源の活用などもこの中に文言として盛り込まれているわけですが、先程の仙台市内の人が来る部分に加えて他所の地域から人を呼び込んでいく形の魅力ということも考えなければいけないと思うんですけども、ここら辺もこの基本計画の中のいろいろな言葉出てきていますが、これについてはいかがでしょうか。

西大立目祥子委員

この基本計画を先に送っていただいたものをちょっと拝見していて、一番気になったのは、もちろん分野別計画のところで市民の暮らしをどうする、都市の魅力をどうつくるかというのはあるんですが、その前の理念と視点って変わっていますが、基本的方針に都市計画的な言葉しかないというところが、とても私は気になりました。つまりこれは市民に対してこういう仙台市をつくっていきますと提示するものでありながら、一体市民、私たちの生活が10年後にどういうものであるのかというところが、この理念からなんかよく見えない。だからお金が無くなっている中で何とかこの街を保たせていきますとか、そういうことは分かるんですけども、私たちの生活が果たしてその中でどういったものになるのか、変わらないまま維持されるのか、それがやはり市民力という以上は、そこのところはもうちょっときめ細やかな血の通ったというのか、そこがすっぱり抜けているように私自身は思いました。だから、コンパクトシティを目指すのは分かるんですが、コンパクトという都心に全部集約するというときに、機能論だけでいいのでしょうか。産業を引っ張ってきましょう、いろんな人に来てもらいましょうというのは分かるんですが、コンパクトシティというものは要するに、そこに人が住み、働き、お買い物をして暮らしていく、そこで何十年も暮らしていく、自然も感じながら暮らしていくということなので、今まで大雑把なゾーニングで山の方に造った団地は団地であっても自然豊かだろうということが、結局街の中に集約されてくるわけです。そうすると街の中、都心に住みながら緑を感じたり風を感じたり歴史ある雰囲気を実感したり、そこで働いて家族が暮らすというその多様な要素を都心にどうつくっていくかということがないと、ただの機能論に終わる総合計画になってしまうんじゃないかなというところを懸念しました。その辺をもう少しこの部会で議論を続けたいと思っています。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

今、西大立目委員から基本的なところのご指摘をいただいているわけなんですけれども、いかがでしょうか。少し機能性を重視して住んでいる人たちの将来、この仙台でどういう暮らしをしているのか楽しんでいるのかというところが、ここからは読めないのではないかなというご指摘をいただいていますけれども。

山内企画調整局長

このいわゆる設計図という部分についてはまだまだ熟度が低いと認識しておりまして、将来的にもいろんなプランニングを同時平行に進めておりまして、そういった中でいろんな制約が高まる中で成熟社会という位置づけがあって、そういった中でも都市として成長していくためにはどうあるべきかという基本の認識がまずございました。加えて、都市経営的な部分では、その審議会でも市民力というのが大変大きなウエイトを占めて議論されている中で、そういった市民力とは一体どういうものか、それを更にこう生かして、いわゆる人材都市として更に発展していくにはどうあるべきかという部分が、将来的には大きなテーマとして議論がなされるということでございまして、今、西大立目委員からお話がございました、その市民生活からみて良く見えないという部分のご指摘ももっともな点であろうかと思っておりますので、その辺も含めていろんな構造をどうしていくかは再検討していきたいと思っております。ただ、先程来の設計図でちょっと説明不足だったかもしれませんが、一番下の推進体制の中で、分かりやすい目標設定をするとか、市民協働による評価手法の検討をするとか、そういったこの市民生活がどうなっているかという部分は、こういった指標をこう設定して市民力をどう評価していくかと、この辺も市民生活の向上に大きく貢献していく断面になろうかと思っておりますので、その辺も含めてご議論いただければと思います。

宮原育子部会長

はい、ありがとうございます。

まだまだご意見あるかと思えます。先程事務局からはあわせまして資料6の先程のゾーニングについて西大立目委員も触れられましたし、江成委員からもちょっと触れられましたけども、ゾーニングをしていますと説明がありました。仙台市は山から海までいろんな立地があるわけですが、そこを色分けしてお話を進めていたわけです。このゾーニングについてないしはそれから都市の交通体系のイメージ等について説明があったかと思いますが、これも含めてご意見ございましたらお願いします。いかがでしょうか。はい、では石川委員お願いいたします。

石川建治委員

なかなか考えそのものは、しっかりまとまっているわけではないんですけれども、先程の議論を聴いていまして、人口フレームのところで市民の立場からすると、今の持ち家を仙台にもっている方々は多分多くの方々はついの住み家として自宅を求めたと思うんです。そうすると、例えば中心部への回帰が始まっているという話もありますけれども、なかなかついの住み家として郊外の団地に住宅を求めた方たちが街の中に改めて移動しようと、あるいは郊外団地の空いた部分に新たな家族などを入れようということはなかなかそんなに簡単にいくものではないと思うんです。大切なのは人口の総体、総数もそうですけれども、そういった総推移の中でも、その年齢構成とかそういうものはリアルにみていかないと、ただその納税する世代をどう考えるのかということとか、選ば

れる都市と言ったときに、これから新たに将来に市民を多く回帰させてという、その条件をどうつくっていくのかということに非常に大きな影響があると思うんです。その辺はしっかり見る必要があるだろうと思っています。

それから交通の問題、コンパクトシティの問題でいうと、そういう都心部に移動させるというふうにして、必要なものを都心に集約していくと考えることよりも、要は郊外の団地に住んでいる人たちをその中心部、すなわち生活に必要としているあるいは必要とするものをつないでいく交通体系をどうつくっていくのかというのは非常に重要な問題であるだろうと思うんです。結局もうからない路線は切り捨てていくということではなくて、きちんとその生活が成り立つ足をどう確保するのかということを考えなくてはならないと思うんです。そのときに、資料6の図2の都市内交通体系のイメージというところで、非常に強調されているのが青い矢印のフィーダーバス、これはまず地下鉄に、団地から地下鉄に人を運んで地下鉄を利用して、それぞれのところに行ってもらおうというのが基本になっているんですけれども、これは生産年齢の方たち、いわば通勤通学で朝必要な時間帯に非常に有効だと思うんですけれども、しかし一方で、高齢者の方々だったり、その介護を担当する方たちからするとこのフィーダーだけでは生活が成り立たないというか、そういった面では団地間をつないだり、あるいは病院とか商店街とかそういういったものをつないでいくというメリハリがないと、市民生活の足を確保することになっていかないし、その足を確保することによって初めて仙台としてのコンパクトシティというか仙台版のコンパクトシティというものを描いていく必要があるだろうと、これを見て考えてそのように思いました。

宮原育子部会長

はい、ありがとうございました。

今、交通体系でもご指摘がありましたが、やっぱり地下鉄とその地域をつなぐという見方をしていますけれども、やはり本当に生活していらっしゃる方たちの現状の中でのつなぎ方というのはもっと別の視点を考えていく必要があるのではないかとということでご指摘いただいたと思います。

ほかにいかがでしょうか。

柳井委員お願いします。

柳井雅也委員

このコンパクトという言葉、コンパクトシティと先程から出ているんですけれども、多分議論を混乱しないためにある程度定義づけしておく必要があります。例えば西大立目委員のお話では、コンパクトシティといういわゆる全部真ん中にもってくるという話なんです、石川委員のお話では、交通体系を中心としたコンパクトシティという意味で、恐らく仙台の100万都市のコンパクトシティとは後者だと思いますので、そこはきちんと確認しておいた方がいいと思いました。

それと西大立目委員がすごく重要なことを言われていました。市民力という問題が視点の中に反映されていないと私もちょっと感じておりまして、何でだろうと基本構想の

市民力というところを見てみたんですが、やっぱり市民力というものが本来多面的にとらえられるものなんですけれども、これがうまくこの中に組み込まれていないんです。だから僕が考えている市民力では、もっと経済活動も大事だと考えていまして、例えば、学都という話、知的資源の活用とあるんですけれども、これは例えばコンテンツ産業とか知識集約型産業とかという一個一個の人々たちの起業力というんですか、業を起こしているところなんです。そういったものも市民力のひとつとらえているんです。

そう考えていくと、この文章を読んだ限りでは、どこかの学びサークルをたくさんつくっていくような感覚で何かもう一つ別なこういった学びを通じて、大きく地域の経済とか財政収入に貢献していくような大きな産業的な要素としてのとらえ方というのが弱いとか希薄な感じがするんです。改めて考えてみると、次にどういう信念でどういう言葉を使っているかという問題につながってきまして、例えばこの場所このレベルだと、観光とか国際化という言葉は使えないんですけれども、ずっと落とし込んでいくとどこかにそういったものが忍び込んできると。だけど実はその国際化の問題とか観光の問題というのは実は仙台がこれから外貨を、他の地域からの移入型移出型という、移入型の産業都市としてお金を獲得して重要な社会になっていくわけですから。だから、もう少しそのところを意識して視点のところをもう少し、先程から熟度と言われていましたけれども、もうちょっと多面的にしておいた方がよろしいんじゃないかというのが僕の意見です。そうでないと、これは何かこう文系の文化的な非常に限定された視点という感じが否めないと思うんです。それでは市民力はここからは感じ取れないということなんです。

宮原育子部会長

はい、ありがとうございます。

いかがですか。事務局の方は何かございますか。

梅内総合計画課長

市民力という点が、理念と視点のところでは欠けているというご意見につきましては、先程も申し上げましたけれども、熟度の足りない部分があると思っておりますので、これから是非そういった視点で少し構成を見直していきたいと思っております。基本構想の2の市民力の議論などもこれにまだ十分反映させておりませんので、そういうところも考えてまいりたいと思っております。

先程の石川委員からありました、生活交通のイメージにつきましては、確かにこういうフィーダーパスというのは生産年齢人口を中心とする部分があるというのはご指摘のとおりかと思っておりますが、ややこの図自体が将来的な方向性を強く満たしている部分がございます。ご指摘のとおり、団地の中で基本的な生活が間に合うという視点が大事だと思っております。そういうところとどのように両立させていくかというのが大きな課題だと思っております。

宮原育子部会長

はい、ありがとうございました。
ほかに都市像等でよろしいでしょうか。
では大草委員お願いします。

大草芳江委員

自分は今おっしゃっていた話の中から、特に理念と視点のうち「学都の伝統や知的資源の活用」についてちょっと言及したいと思っております。

自分は元々転勤族でして、仙台市民になったのは人生のうち半分ぐらいなんですけど、こちらに来てやっぱり、ずっとここに住んでいる割にはなかなか仙台というまちに対してリアリティを感じていないと感じているんです。正直に言うと、大学にいる間もなかなか自分たちの足元というか地域に対して目が向かなかったというのが実際のところなんですけれども、今自分はそういった中から起業して小中高年向けの新聞型媒体、民営の新聞での取材活動や、また先日、学都「仙台・宮城」サイエンス・デイという科学イベントを主催する中で、数をこなすにつれ逆に、仙台には要素というか資源というか価値あるものがいっぱいあるということを、逆に活動を通じて実感をしている次第なんです。自分がその中で一番感じるのは、本当は仙台に一杯そういう知的資源とか伝統、例えば光通信発祥の地が仙台だとか、そういうことも全然知らないでずっと過ごしていたのがすごいもったいないと思ってまして、少なくともそういったものを価値とか、資産としてあるんだということが価値化されるだけでも、全然こう住んでいる人の実感として違うんじゃないかというのを感じているんです。ですから、先程の市民力とかそういった部分のお話もありましたけど、まず住んでいる人が自分たちの地域にこういったものがあるのか、それがまず見えるようにするだけでも、かなり違うんじゃないかなということかを自分はすごく実感しているという次第です。

宮原育子部会長

ありがとうございます。大切なことだと思います。

ちょっと時間も押してきましたけれども、もう一つ事務局から示された資料7の、今大草委員がおっしゃった、その仙台のいろいろな資源を目に見えるような形にしていけることが、やはり市民の人の参加を促したりとか、それから、いろんな他所から来る人たちにとっても仙台のリアリティがよく見えるのではないかとご指摘だったと思います。

資料7の12ページから都市の魅力としている分野の体系として、いくつか言葉がぶら下がりまして13ページからは、それぞれの一つ一つの短冊を、もう少し具体的に書いてみるとこういうことが挙げられるのではありませんでしょうかということで、文章で主にはつづられているんですけれども、都市の魅力部会の部分でもう一つ最後に議論をおきたいのは、ここの表現の仕方です。先程から皆さんおっしゃっているように視点の置き方が何かこうやっぱりちょっと外れているぞとか、市民の立場になっていないんじゃないかというご指摘などいろいろあるんですけれども、ここら辺の感じ方はいかがですか、皆さん。

まだこの設計図はたたき台ですので、今日はとにかくいろいろ言っていただきながら、この部会ではこういう意見が出たということで取りまとめを進めていきたいんですけども。

どうぞどんなご意見でも結構ですので、ここに並んでいる言葉それからその項目の視点について何かありましたら。

では、阿部委員お願いします。

阿部初子委員

いただいた資料をざっとこう見ただけなんですけれども、その中で先程会長さんがお話なさった、仙台は海もあり山もあるんですけども、海の視点がないなとすごく思っていて、そういう部分が農業の活性化でありますとか様々なところもあったんですけど、その部分がなくて、水族館みたいな話があったんですがそれもなくなっただのかなと思っていました。そういったところも全然海の視点というところが、せっかく海はあるのにないなというのをただ感じて、そのことをどうつなげていくのかとか、私のところにまだないんですけど、全部いただいた資料を見たときにそれを感じたところでした。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

海側の部分ですね、ここに視点が置かれてないのではないかとということでございましたので、そこも是非ご検討いただければと思います。

ほかにはいかがでしょうか。間庭委員何かございますか。

間庭洋部会長代行

ちょっとこの質、魅力のところに及ぶときに、どうしてもベースになる人口のところにもう一回話が戻っちゃって恐縮なんですけど、こっちからの視点なんですけど、やっぱりフレームを数としてとらえることと、それから先程簡単にご説明されていましたが、やっぱり5年後、10年後の市民っていったいどういう人たちなのかという質です。階層ですとか、先程統計に使われているような生産年齢人口という統計が出されてたんですけど、やはり社会移動が激しくなる。特に仙台みたいに東北における仙台は札幌と同様に人口が全体として下がっていく中でも、その地域における拠点性の高いところに働くとか学ぶというのを求めて来る人が、やっぱりある一定のシェアがあるわけですね。ところが、シェアというのは総量が減った場合は、奪うことになってしまって、全体としては例えば東北としては減少していくモードが激しくなる可能性が分析でもありましたようにあると、その中における仙台は横ばいになんとか減少が激しくならないという部分、どういう人たちがそこに集まってきて暮らし住むのか、あるいは働く企業も含めるのかという想定と、それから東北が5年10年先どんな状況になっているのか、ちょっとデータではこうやってましたけれども、その関係において仙台の都市の魅力あるいは産業、働く就労の場も含めた役割が非常に見えてくると思うんです。特に東北がもし想像以上に疲弊していった場合は仙台で就労を求める方がどんどん入ってくる、そういう人口が集中

するようなどころは失業率や失業者数は増える可能性があり、就労に限界があるにもかかわらずそれを求めて来る人が多く流入するというロジックがあり得るわけです。そういったことを想定してさっきの集約的市街地化をどうするかとか、交通をどうするかとか、それから都市の魅力をどうするかということをベースにして考えていかないとちょっと見誤ってしまう可能性もありますので、仙台はどういうふうに動いていくのかということをやっぱり人口の数だけではなく、階層的なものや質的なものも意識する必要があります。

例えば、東京のすぐ近くの埼玉などは、都市型高齢化の流入が激しいところもたくさんあります。これは仙台においてもその可能性があると思うんです。高齢になった場合、医療施設その他の関係、福祉施設の関係で仙台に行ったほうが最後は暮らしやすいからいいということなど、これからその格差が激しくなってくる可能性があるわけです。医療福祉サービスの格差により、地域格差のようなものも想定していかないといけないということは、数とちょっと違う分野で、階層と質でこういった魅力とかいろんなことを考えるときに、どうしても類推してしまいますので、今日あのデータが非常に簡潔なものしか出ていないと思うんですが、多分事務局では、そういったことも相当データ分析されていると思いますので、いずれのときにまたそういったところからの課題もご指摘いただければ、今回のこの魅力とか与えられた課題に対してもっと深い議論ができると思います。特に市民力といったものも現状のトレンドだけでこう創造、想定していくと、後5年か10年したら仙台市民の今の方々が相当入れ替わっている可能性があるわけです。そういったときに市民力を永続的に形成するのはどういうことなのかということも理念がちょっと変わっていく可能性があると思うんです。優遇者の比率が高いケースをどう想定するかとかあると思いますので、その辺も人口値と、今の与えられた課題と非常に密接な関係があると思いましたので参考に。

宮原育子部会長

どうもありがとうございました。

この分野別のいろいろ細かい議論に行く前に、やっぱりどうしても今日はその人口の、皆さんフレームのところでもやっぱり前提が見えてこないといろんなケースがあるんだろうというお話ありました。実際に例えば、山形県に住んでらっしゃる高齢者の方が仙台に移動するというケースがあって、それはどういうことかということ、息子さんたちがもう既に仙台にお住まいになって、山形にいるおばあちゃんお一人残していると、例えば冬に雪下ろしとかできないんです。家の管理が難しくなってくるのでそれだったらおばあちゃんも仙台に来て一緒に住もうよとか、そういう形でこれも移動なんですけれども、それぞれの地域で仙台以外の地域でもそれぞれの事情によって、どうもそのいろんな方たちが移動されているという状況があるようなので、そういった東北の全体の社会の変わり方の中で、今仙台をどうみるかということ、その視点を持つというのは再三間庭委員がおっしゃっていますけれども、やっぱり重要なところになるのかなと思います。

それから逆に、都市の魅力としてはもっと違う方たちが仙台に対しての魅力を発見されたりとか、それから例えば外国人の方の問題があると思うんです、外国人の観光客の方以外に、

いろんな会議とかもっと知的産業が集約したときにいろんな会議でこういらっしゃる方とか、多分観光客だけでなく様々な用事でいらっしゃる方も種類が多様になってくると思うんです。そのときの仙台はどうあるのかということも、もう少し考えた上で各論をもうちょっとみんなでイメージした上で、こういった設計図の上に載せる言葉をしっかり選んでいくという逆方向の考え方も必要なのかなというふうに皆さんのお話を聴いていて思いました。

それで、そろそろ時間にもなるんですけども、後いかがでしょうか。ほかに皆さんの方からご意見は。

西大立目委員。

西大立目祥子委員

すみません、ちょっと戻ることにもなるのですが、私がゾーニングがちょっと気になりました。

宮原育子部会長

資料6ですね。

西大立目祥子委員

資料6の2ページにこの絵がありまして、ここに「目指す都市のかたち（都市空間構想図）」とあるのですが、このゾーニングについてはその後の今、宮原先生がお進めくださった、この言葉がぶら下がっているところにも何度か出てくるんですけども。

宮原育子部会長

資料7のところですね。

西大立目祥子委員

何箇所が出てきてますが、このゾーニングの仕方がちょっと大雑把過ぎやしないかという気がします。これは目指す都市の形というよりは現在の土地利用の感じではないでしょうか。やはり成熟社会に都市空間それぞれが、それぞれの地域がどうあったらいいかと考えると目細かさがないと魅力は輝かないし、引っ張り出せないと思うんです。ですから単純に市街地として三つに分けているわけですけども、これはその交通体系につながってくることとして鉄道沿線区域とやっちゃっているのかもしれませんが、本当にこう都心の集積度が高いところとか、それから都心の際のところとか、あるいは市街地と農村地域の際のところとか、そういうところにいろんな問題、景観的な問題やその住まい方の問題が発生しているのではないかと思います。こういうところをもっときめ細かく拾っていくことが、何か後のこのぶら下がっている細かい体系の言葉を豊かに、内実が伴うものにしていくんじゃないかという気がしました。

宮原育子部会長

はい、ありがとうございます。はい、いかがでしょうか。はい、では増田委員お願い

します。

増田聡委員

今の都市空間構想図ですが、どう言えばいいのかあまりよく思いつかないんですけど、前回の総合計画のこの図はもっとダイアグラムみたいなものが乗っかっていて、実際の地域イメージというかそれがどこであるのかが余り分からない図になっていて、その図が今の検討中の都市計画マスタープランになるともうちょっと具体化された図になって、都市計画の地域のゾーニングの用途地域とか市街化区域の地形図とかになると線が見えている、そう前回の総合計画では書いていたんです。ですので全体として山から海までこういう空間構成を担っているというのを伝えたい図だと私は理解していますが、今さっき言ったまだら化する地域課題ということで言えば、今のそのフリンジ部分や都市の農村の際が典型的にまだら化している部分なんです。そういう地域を取り上げるということと言うと、やっぱりまだら化している問題地域のゾーニングを別途描けるかが大きな課題としてあるかと思います。

それともう一つは、この図と仙台21プランの図、ちょっと思い出しているんですけども似ているようでちょっと違ったりしていて、副都心が消えて、副都心と言ってなかったですね、地域中心拠点といていた愛子が消え、微妙にこう書き換わっているところもあるし、東西線や南北線は仙台市自体がつくっている交通局のインフラなので大きく赤く二本のプラスの十字という形になっておりますが、ほぼ同様の役割をこれまで仙山線、仙石線、東北本線も果たしてきていて、それはこの鉄道沿線ゾーンというところになっているわけです。したがって、何となくややなれが悪いゾーンかなという気もしないでもないですけども、もう少し市街地ゾーンは別の類型化もあるかなという気もしますが、そうすると都市計画審議会の方にも、また戻ってくるのでそれはそれでそちらで議論をしたいと思いますけれども、いろんなご意見をいただいてもうちょっとこの図は考えた方がいいかなと。

宮原育子部長

ありがとうございます。

いろいろこのゾーンについてもご意見をいただいております。後、ほかにいかがでしょうか。はい、では岡本委員お願いします。

岡本あき子委員

資料7の12ページに都市の魅力というのがあって、枝分かれしたそれぞれの項目があるのですが、私だけかもしれないのですが、一番上の「自然と調和する持続可能な環境都市づくり」と「美しく魅力ある都市景観・空間づくり」で結構重なっている部分があって、項目にするとたくさんになるのであえて二つに分けたのかなと思うのですが、やっぱり杜の都としての仙台ということで、自然と調和する環境都市という仙台のある意味売り文句になるまちづくりの中に、杜の都に相応しい眺め、都市部の看板も含めてそういうのも入っても差し支えないんじゃないのかなと思うんですが、あえてこう二つに分

けた方が皆さんにとって分かりやすいのか、私はなんか一本化しても一緒でもいいんじゃないかと思って読ませていただいた部分と、先程やっぱりちょっとゾーニングのお話の中で、特にやっぱり郊外型都市というのが単純にすべてが薄い黄色で染められていましたけれども、それぞれがやはりいろんな意味で郊外型都市の課題に合わせて、あるいは今延びつつあるけれども、一戸建てが多い地域というのは申しわけないけれども30年経ったら明らかに高齢化世代になって、次の世代交代が、賃貸で住んでいる地域は別としても、一戸建てが多い地域とはどうしてもある程度ピークを向かえると次には縮小していくエリアというのはどうしても見えてくるので、そこら辺を郊外型都市の中でも更に明確にされてはどうかということと、もう一つ公共交通中心の項目の中で、今の道路整備法を抜本的に見直しているのも、ある意味効果的に整備を進めて、優先順位とか書いてますけれども、効果的な整備を進めるというよりは、もう一度新たな今後の10年をあるいは2050年を見据えた上で必要な交通体系をきちんと明示していくとか、そういう、ある意味何となくやっぱり進めるんですねみたいに言葉としては難しいのかもしれないのですが、進めるんですねというよりもある程度きっちり見極めますということがあってもいいなと思ってます。

後もう一方は自転車というのも、もっと自転車を活用していくまちづくりというのが一つあってもいいんじゃないのかと思います。自転車の利便性を高めるけれども、歩行者中心のというフレーズになっちゃっているのも、歩行者は歩行者で一つ、車よりもだったら自転車を活用していく、そういう環境にやさしい交通ということもうたっても、仙台ならではでうたってもいいんじゃないのかなと思いながら読ませていただいています。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

後最後に柳井委員。

柳井雅也委員

産業、いわゆる都市型産業というのは先程から出てきているんですけども、いわゆる知識集約型産業であるとか金融とか新しい対事業者サービスとかそういった産業というのは、いわゆる日本三大都市圏が大体6割から8割くらい占めている場合が多くて、残りのシェアを地方圏が争うという構図なんです。したがって、この計画でいくと一見なんかこうバラ色のように、都市型産業の受け皿をつくれれば来てくれると思うのかもしれないのですが、実は難しいだろうと実感しております。それはもう全国的な視点からある程度の階層性を持った、特定の機能を持った知識集約型産業が張り付く、例えば労働集約的なこととか特定の役割を持ったものとか、あるいは地元のマーケットとか、対応するものが限定されてきますので、そのときにどう考えていくかということなんですけれども、恐らく勝負どころは、この人口を考えると10年間で勝負どころで、まだ人口は急激に減るといふところまでいかないです。だからもしこういう都市型産業を一つのこの錦の御旗にして産業活性化ということを考えていく場合は、この10年間にいろんな経営資源を仙台市の持っている人的なものを含めて投入していただきたいと思います。

人口が減りますと実はこういうサービス産業とか知識集約型産業というのは必ず衰退するんです。そういうときはもっと別なことを考えなくちゃいけなくなりますので、フェーズが変わってしまいます。従ってもしこの都市型産業をやるとなったらこの10年でやり終えることを覚悟しておいた方がいいと思います。

宮原育子部会長

ありがとうございます。

この10年それからその次の10年を、さっき江成委員もおっしゃっていたんですけども、やっぱり見据えながらこの10年で打っていくべきことを考えなければいけないということです。よろしいでしょうか。

今日はたくさんご意見をいただきました。今日皆さんが初めてご覧になる資料とか、事前にももちろんお送りして読んでいただいているんですけども、今回のこの部会で初めてたたき台として出てきた資料が大変多かったので、ちょっと私の進行も悪くてあちこちご意見が飛んだんですけども、多々一番人口の部分、それからそこからどういう生活、市民生活や地域、もうちょっと小さな市内の地域それぞれをどうイメージしていくのかというところを、もうちょっときめ細かく考えてほしいというご意見があったかと思います。

活発なご議論を皆さまにはありがとうございます。今日事務局から提出されたのが今言いましたとおり、まずは素案ということになりますのでまだ部会は続きますので、またそれからもう一つの部会、市民の暮らしの方の部会の方でも同様の議論が進みますので、これらを踏まえましてまた内容を肉づけした中間案をまた今後ご提示いただくことになっておりますので、事務局の方はよろしくお願いしたいと思います。

(3) その他

宮原育子部会長

最後にその他ということで、事務局から資料が出されておりますので、こちらにつきましてご説明をお願いいたします。

梅内総合計画課長

本日はご議論いただきましてありがとうございます。今部会長からもお話がございましたけれども、本日第1回目の部会でございまして、いろいろたたき台ということでお示ししましたけれども、熟度の低い点とか多々あったかと思います。本日時間の関係でご意見いただけなかった部分ですとか、後日お気づきになった点があれば是非事務局にメールでも電話でもファクスでも結構でございますので、ご意見を寄せていただければと思ってございます。よろしくお願いいたします。

ご案内ありました資料8について簡単にご説明させていただきます。

宮原育子部会長

資料8ですね。

梅内総合計画課長

カラーになってございますが、8月の最終週28日と9月4日に「まち歩きフィールドcafe」という形でワークショップを実施したいと思ってございます。市民力ということで市内にもいろいろな形で市民の皆様の活動、あるいは行政と市民の連携という形で、まちづくりをいろいろなところで担っておるわけでございますが、実際そういったところを希望者の方にグループを組んでいただきまして、実際の現場を訪ねて実際に見てお話を聴いていただいてこれからの市民力のあり方、まちづくりのあり方について考えていただいた上でその成果について部会などでご報告いただきたいと思います。また、四つの現場を想定しておりますけれども、そこでのファシリテータといいますが、コーディネート役につきまして審議会の各委員の皆様にも一部お願いしているところがございます。ここにお越しにいただいている皆様にもお願いするところがございますので、ご協力の程よろしくお願いいたします。以上でございます。

宮原育子部会長

はい、ありがとうございます。ただ今の資料8につきまして何かご意見、ご質問ございますでしょうか。

では石川委員お願いします。

石川建治委員

今の説明ありました中で予定しているのは4箇所という話でしたが、もしあの今の時点でこのフィールドcafeの内容をもう少し詳しいものがまとまっているのであれば、是非示していただくとありがたいのですが。

宮原育子部会長

そうですね。

よろしくお願いします。

梅内総合計画課長

ありがとうございます。

現在予定している4か所の現場でございますが、若林区にございます地域福祉関係の「あかねグループ」、卸町にありますクリエイターインキュベーション施設であります「TRUNK」、集客ということで様々な活動をされております「壺式参横丁」、そしてこちら「メディアテーク」で様々な活動が行われておりまして、一つには3月に建築の学生さんたちによる卒業設計コンクール等が5千人以上の学生さんを集めて毎年行われておりますので、そういった学生さんたちの活動とこのメディアテークとの関係、そういった形で様々な分野で市民の方主催でいろいろな活動をされておましてそこでの課題でありますとか、日ごろのご苦勞でありますとか、今後のあり方について実際に現場で活動者の方にお話を聴いていただきながら取りまとめて、そこで4グループの間で

ご議論をいただきながら、これからの方向性を検討できればということを考えてございます。ちらしの裏は申込用紙にもなってございまして、本日ご参集の皆様をはじめ、お知り合いで是非という方があれば、お申し込みいただきまして、人数多い場合にはそれなりに対応したいと思っておりますので、是非ともお声がけの方よりしくお願いしたいと思います。

宮原育子部会長

よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

今回決められました議事は以上になりますが、最後に本日こちらの部会の議論をお聴きいただいた皆さんから感想までに、ご意見をいただきたいと思います。なるべく分かりやすくお話ししたつもりではあるんですけども、お耳で聴くだけではちょっとなかなかイメージしにくい部分もあったかと思いますが、是非ご意見をいただければと思います。ご発言いただける方はお手を挙げてください。よろしくお願いします。

傍聴者

部会を市民の暮らしの分野と都市の魅力の分野の二つに分けているわけですね。そのうち都市の魅力というが何なのか、この辺が一つ重要な課題だと思うんです。子供にとっての魅力とか、学生にとっての魅力、それからお年寄りにとっての魅力とか、それから観光客にとっての例えば特定のヨーロッパ圏からの魅力とか、アメリカ圏からの魅力とか、そういう魅力ということについて、せっかくこの二つの部会に分けているので、その先程の議論の人口が増えるとか増えないとかという話とは別に、その魅力ということについて話を進められたら良かったと思います。より具体的には、例えば、アンパンマンこどもミュージアムは子供の魅力を引きつけようとしてますが果たしてそれだけでいいのかとか、例えば秋田の方では国際大学とか英語が、せっかく楽天が社内で共通語にしようとか日本全体がそういう側に向かってますので、単に東京を向いているんじゃなくて、世界の中心としての仙台みたいなとらえ方をしないと、何か知らないけれども取り残されていくのではないかと思います。相撲が今議論になっていきますけれども、仙台場所がないわけです、ほとんどなんかこう東京で、要するに日本全国で北半分はほとんど見落とされているんです。伊達政宗じゃないけれども、そういう目じゃなくて、仙台から世界へみたいな観点、せっかく仙台国際空港があるわけですから、そういう観点から魅力ということについて考えていく。そうすれば必然的に世界中から人が集まるし、一番町には七夕がありますので英語ができる人とか、案内の人とか、外人さんが来てそこで日常的に英語を使うようになるとか、それが10年先の可能性があるわけです。楽天とかそういう企業さんとかいろいろ話し合われて、要するに魅力ということについて、せっかく二つの部会に分けているのですから、もう少し具体的に話を進められたら良かったかなと思ってます。

宮原育子部会長

どうもありがとうございました。

コメントということでこれから是非そういった観点も含めていろいろお話をしていきたいと思います。事務局の方よろしいですか。

それでは、後いかがでしょうか。もう一方ぐらいご発言いただける方いらっしゃいますでしょうか。ご質問でも結構です。

特によろしいですか。

それではフロアから特にご質問やご意見がございませんので、会場の時間の関係もございまして、ご意見等伺うのはここまでとさせていただきます。

ありがとうございました。

まだご意見やご発言のある方は、今日お配りしておりますアンケートの用紙にお書き添えいただきまして、是非係の者にお渡しいただければと思っております。

今日初めて市役所の外に出て、審議会の一部の委員がここでお話し合いをさせていただきました。まだまだ話し合うべきこと、それから確認すべきことというのはたくさんありまして、ずっと今年もそういった作業進めてまいりますけれども、是非これからも市役所の方やこの今日お渡ししましたまち歩きフィールドcafeと、市民の方にも参加いただける場面が多々ございますので、是非一緒にいろいろ考えていければと思いますので、どうぞこれからもよろしくお願いしたいと思います。今日は委員の皆様、それからフロアの皆様ご参集ありがとうございました。事務局の方から何か最後にございますか。

4 閉会

梅内総合計画課長

日程の件だけご連絡をさせていただきます。16日、今週金曜日14時から市役所におきまして、もう一方の部会でございます「市民の暮らし部会」を開催いたします。こちらにつきましてもこういった場所だと考えておったんですが、会場の都合で今回が市役所での開催となります。そこで先程ご指摘もありましたが、市民生活の実感ですとか、そういったご意見が多数出るのかなと思ってございます。この後9月の中間案の取りまとめ、そして1月の答申に向けまして部会等重ねてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

最後に部会長からもございましたが、本日アンケート用紙をお配りしておりますので、傍聴の皆様には是非これにご記入いただきまして回収箱にお入れいただけますよう、お願いいたします。

事務局から以上でございます。

宮原育子部会長

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして本日の部会を終了させていただきます。今日はどうもありがとうございました。